

氏名	溝 手 晶 子
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2405号
学位授与の日付	平成14年3月31日
学位授与の要件	医学研究科病理系病理学(一)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Effect of Phlebotomy on the Growth of Ferric Nitrilotriacetate-Induced Renal Cell Carcinoma. (鉄ニトリロ3酢酸により誘発された腎発癌の増殖に及ぼす体内鉄 の影響)
論文審査委員	教授 公文 裕巳 教授 榎野 博史 教授 谷本 光音

学位論文内容の要旨

腎発癌物質である鉄ニトリロ3酢酸(Fe-NTA)で腎癌を誘発された動物において、その後の腎癌の進行に与える鉄の影響は不明である。今回は Fe-NTA を初期投与後、瀉血により体内の鉄量を減少させ、腎癌の発育への影響を検討した。普通食で飼育した雄ラットに3週令から3ヶ月間、Fe-NTA を鉄量5-7 mg/kg(b.w.)で週2回注射した。その後、動物は鉄欠乏食で飼育し、非瀉血群、瀉血群に分けた。瀉血群は週2回、~5 ml の瀉血を行って Hematocrit を 25% 以下に保った。他に無処置群を設け、食餌のみを同一とした。約2年後、腎癌の発生率(%)はそれぞれ 0、56、53 で差がなかった。腎癌の重量は、非瀉血群 54.3 g/匹、瀉血群 23.6 g/匹で非瀉血群における腫瘍重量が有意に増加していた。この結果より癌の成長段階に体内の鉄量を低下させることが腫瘍の成長を遅らせるだろうと結論する。

論文審査結果の要旨

本研究は、腎発癌物質である鉄ニトリロ3酢酸 (Fe-NTA) で腎癌を誘発させた動物において、癌の成長段階に体内の鉄量を低下させることが腫瘍の成長を遅らせることを明らかにしたものである。腎癌の進行に与える鉄の影響に関する知見を得た価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。